

福津市に世界遺産を！

vol.3

福津市世界遺産登録推進室では、新原・奴山古墳群の世界遺産登録を目指し、

●福岡県・宗像市と福津市が事務局となって、県民、経済団体、文化・教育団体、行政等で構成される「宗像・沖ノ島と関連遺産群」世界遺産推進会議が行う活動

●福津市が独自に行う活動を行っています。

今号では平成25年度の活動内容をご紹介します。



新原・奴山古墳群の世界遺産登録活動をPRする市のラッピングバス



沖ノ島祭祀遺跡を視察する小川知事

●世界遺産推進会議

5月18日に平成25年度世界遺産推進会議を宗像市の海の道むなかた館で開催しました。会議では24年度の事業実績及び収支決算と25年度の事業計画案と予算案についての審議や、専門家会議における検討状況報告がありました。

午後からは、推進会議会長の小川知事と推進会議委員70名が沖ノ島現地視察を行いました。

●専門家会議・国際専門家会議

世界遺産登録を実現するためには、新原・奴山古墳群と沖ノ島や宗像大社にどのような「顕著な普遍的価値」があるかということが大事になります。これは“国や民族の違いを超えて、世界中の人々が協力して守っていかなければならない、誰もが認めるような価値があるか”という事です。

専門家会議では世界遺産の専門家による学術的な検討を2回、国内専門家に海外の専門家を加えての国際専門家会議を1回開催しました。会議では資産の保護と管理方法や、ユネスコに提出する推薦書内容について検討を行いました。

また、海外の専門家は沖ノ島、宗像大社、新原・奴山古墳群を視察された後、事務局と意見交換を行いました。



九州大学法学研究院河野教授主催の国際会議で来日したイコモスのグスタボ・アローズ会長（前列左から3人目）大島の中津宮の視察

●現地視察

沖ノ島は「不言様（おいわずさま）」と呼ばれ、島で見たり聞いたりしたことを他の人に話してはいけない決まりでした。このため、沖ノ島本来の価値が、地元の人にもよく知られていませんでした。

沖ノ島を中心とする「宗像・沖ノ島と関連遺産群」を世界遺産に登録するためには、世界遺産登録に関わる国内外の研究者に沖ノ島をはじめとする資産について知ってもらうことが大事と考えております。そのために国内外の研究者に沖ノ島と宗像大社、新原・奴山古墳群を視察していただき、理解を深めてもらう活動を行っています。

平成25年は、ユネスコの依頼で候補地の調査を行うイコモスの委員による現地視察を実施しました。

●報告会

世界遺産推進会議では、ユネスコに提出する推薦書を作成するために必要となる学術的な研究を国内外の30人の研究者にお願いしました。その研究成果の発表報告会を10月12日と13日に実施しました。現在、この研究成果を基に世界遺産登録推薦書を作成しております。



九州国立博物館でのパネル展示

●パネル展

県内外の市民を対象に宗像・沖ノ島と関連遺産群のパネル展示とDVD上映を太宰府市の九州国立博物館のエントランスホールで2月11日から16日の6日間開催しました。体験コーナーでは沖ノ島祭祀でも使われていた滑石(かっせき)を使った勾玉作り体験もでき、多くの方々の来訪がありました。

世界遺産登録活動を応援されている遠賀信用金庫からは、11月からの1月までの間、世界遺産応援定期預金の募集を実施され、預金総額の一部を世界遺産登録活動支援金として世界遺産推進協議会に寄付していただきました。また応援活動の一環として遠賀信用金庫の遠賀・むなかた・みやじ参道・古賀の各支店のギャラリーで世界遺産のパネル展示を行いました。



遠賀信用金庫みやじ参道支店でのパネル展



●実業団女子駅伝 西日本大会での応援

10月27日に福津市・宗像市をまたがるコースでトップアスリートによる熱戦が繰り広げられました。新原・奴山古墳群もそのコースに含まれており、当日は世界遺産のほりを立てて選手の応援を行いました。

●キューヘンゆのか祭りでの展示

10月27日に株式会社キューヘンのお祭りが行われました。世界遺産啓発のブースを設置して世界遺産のパネル展示とクイズを行いました。参加者は一生懸命パネルの内容を読んでクイズに答えていました。「世界遺産について初めて知った」「福津市に世界遺産になるような古墳があることを今まで知らなかった」多くの市民に新原・奴山古墳群や世界遺産について知ってもらえた一日でした。



●市の公用車と市のバスで世界遺産を宣伝

福津市には47台の公用車が市内を走っています。この公用車には「新原・奴山古墳群を世界遺産に」と書いたマグネットシートを貼り、市内を走る世界遺産広告塔になってがんばっています。また、市の行事に使用する中型バスとマイクロバスには、宮若市のトヨタ自動車九州株式会社によって新原・奴山古墳群のイラストが描かれました。市の公用バスの広い車体をキャンバスに見立てて描かれたイラストは芸術的で、世界遺産のPR効果は大いに期待できます。



●新原・奴山古墳群を巡る一日 (バスツアー)

11月3日・13日、3月9日の3回、新原・奴山古墳群と市内の史跡を巡るバスツアーを行いました。福津市内のみならず、隣接する宗像市、古賀市や福岡市等の人も含め計100名の参加がありました。参加者は、新原・奴山古墳群を一望できる高台で、古墳群の先の玄界灘に浮かぶ大島を見ながら、古代にこの海で活躍した宗像氏と沖ノ島についての説明を聞き、古の人々の営みに思いを馳せていました。昼食は福津市の自慢の食、鯛茶漬を味わいました。